

とうねい



輝き ～山梨県 山中湖～

新春に、湖面が凍結して太陽の光が明日へ希望の光となっています。

フォトサークルA 千田 ムツ子

●目次

輝き	1P	介護老人保健施設 なでしこの里	5P
新年のごあいさつ	2P	リハビリひらつか竣工披露式	
理事長 野村 直樹		歳時一覧	6P
院長 山下 巖		リハビリ通信「車椅子について」	7P
地域連携フォーラム	3P	老健さつきの里あつぎ	
糖尿病教室		新年のご挨拶	
かけはし ～登録医紹介～	4P	忘年会	
在宅懇談会		ペットのはなし	8P
内視鏡センターだより		編集後記	
		関連施設一覧	



新年あけましておめでとうございます



三思会 理事長
野村 直樹

でも住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。」としています。

新年あけましておめでとうございます。
いよいよ平成も終わりを迎えようとしています。『平成』の由来は『史記』五帝本紀の「内平外成（内平かに外成る）」、『書経』大禹謨の「地平天成（地平かに天成る）」からで「内外、天地とも平和が達成される」という言葉からきているとのこと。残念ながら平成30年は多くの災害に見舞われました。夏の猛暑があり、度重なる列島直撃の複数の台風があり、そして北海道胆振東部地震。多くの方が不幸に見舞われました。災害の恐れはまだ収まりそうにありません。南海トラフ地震とか東海大地震等と呼ばれる大地震も間近に予想されており、厚木市も少なからず被害を受けることが予想されています。関係者の役割分担を明確にし、地域的な対応が期待されます。

一方2025年問題と称される高齢化の進行に伴う社会保障の脆弱は2050・2060年あたりに最も深刻になるとのこと。地域包括ケアシステム“の名のもとに、病院ではなく“地域”で在宅医療を含め、高齢者の方たちをお支えることの大切さが言われています。

厚労省は「団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、重度な要介護状態となっ

当法人は“地域医療”という言葉に集い、地域における保健事業、医療事業、介護事業、福祉事業に携わってきました。これまで医療事業を大きな柱としてまいりましたが、今後は介護、福祉事業をもう一つの大きな柱として位置づけ、地域への貢献を考えていきたいと思えます。重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができることはそう容易なことではありません。当法人の歴史を思い、ノウハウを生かし、地域の方たちとの連携の中でこれからのこの地域の高齢化に対応して尽力していきたいと思えます。

そして東名厚木病院は人生百年、二人に一人が“がん”になる社会において“がん”の診断治療を総合的に行える組織として整備し、稼働しています。特に一昨年始めた放射線治療は、今まで厚木市以外の病院に通い、治療されていた多くの方が厚木市でできるようになり、地域的な新しいがん治療として貢献できるものと思っています。また同時に整備したがん化学療法センター、緩和ケア病棟もそれぞれの役割を果たしながら、がん治療における集学的な対応をしています。

変わりゆく本邦の社会保障制度の中で地域の皆様のお役にたてるよう心新たに、新年のお慶びにかえさせていただきます。



東名厚木病院 院長
山下 巖

新年あけましておめでとうございます。本年が皆様にとって良い年になりますように心よりお祈りしております。

東名厚木病院は、一昨年2つの大きな変化がありました。1つは新棟（4号館）の運用開始と旧棟の改装、もう1つは電子カルテの変更です。新棟の運用は1年が経過しました。手術室、ICUの増床、広くなったER、最新の放射線診断機器の導入により多数の患者さんに対して検査・治療ができるようになりました。6月には放射線治療が開始し、今まで遠方での治療が必要であったこの地域の患者を受けています。7月には内視鏡センターとがん化学療法センター、10月には緩和ケア病棟14床を開設しました。こちらはまだ始まったばかりですが、多数の患者さんを受け入れています。施設が整ったことで、がんの診断、治療、手術、化学療法、放射線治療、緩和まで、連続的ながん治療もできますし、どの段階にご紹介いた

ても、適切は診断治療ができると考えています。新棟や新しい施設が順調に稼働し、がん治療ができるのも、地域の医療機関や市民の皆様を支えられたおかげと感謝しています。

電子カルテは2代目になります。今では当たり前のものとなっている電子カルテですが、当院が2002年に運用を開始した時点では近隣の大学病院や大規模病院はすべて紙カルテでした。また、当時は販売されていた電子カルテは使えるものではありませんでした。ベンチャー企業と当院が提携してゼロから作った思い入れがあり、使い勝手の良いカルテでしたが15年が経過して診療報酬や後発薬剤の変更などタイムリーな対応が困難になりました。8月変更時は多少の混乱はありましたが、現在では各部署でしっかりと使いこなせていると思います。また各部署のみならず、多職種協働面でも摂食嚥下療法チームや糖尿病多職種連携チームなど様々なチーム医療もこのカルテを使用しながら、積極的に活動しています。

本年も誇りと責任を持ち、地域医療支援病院として、得意とする心筋梗塞、脳血管障害、切断指などの外傷治療、内視鏡的治療、透析治療、がん治療にさらに磨きをかけ、チーム医療でさらに医療の質を高くし、地域住民ならびに医療機関の皆様に一層信頼され、愛される病院を目指して参りますので、どうぞよろしくお願い致します。

第3回 地域連携フォーラム開催



第3回目を迎えた地域連携フォーラムが11月2日(金)に三思会記念ホールで開催されました。今年のテーマは「外傷治療」でした。

当院の整形外科、形成外科、脳神経外科から症例報告があり、どの症例も普段は遭遇しない珍しい疾患ばかりで、フロアの方々からも大変興味深い、と沢山の質問をいただきました。

招待講演は医療法人聖和会理事長の後藤典彦先生に座長をお願いし、埼玉医科大学総合医療センター 高度救命救急センターの森井北斗先生に重度四肢外傷の最先端の現場を見せていただきました。

当院では対応が困難な切断肢への対応は、実際にはどのように行われているのか？ 片腕が切断されてしまったという衝撃的な怪我を負った少女の症例を通して、工夫や苦悩、感動も交えた回復までの過程を見せていただき、最

後は、重症外傷治療のこれからの課題は「質の高い外傷治療のために患者と医師の集約化にある」とも熱く語っていただきました。

約1時間、スティーブ・ジョブズばりの意匠に凝ったスライドを駆使したとても示唆に富む講演でした。

その後の懇親会では、お集まりいただいた約100人の出席者の皆様と直接お話しする機会をいただき、盛会のうちに終了することができました。

お互いの顔の見える関係を大切にしたい地域連携フォーラムは、来年も11月2日に開催する予定です。皆さんに楽しんでいただけるテーマを用意してお待ち申しあげております。

地域連携室 室長 安西 秀 聡



市民講座 第3回 糖尿病教室



糖尿病があっても合併症を発症・進展させず健やかな人生を全うしてほしい、そのためには正しい知識をもつことから、と考えて、当院糖尿病チームは例年市民向け糖尿病教室を開催しています。今年度は、去る11月17日、全国糖尿病週間に合わせて『高齢社会と糖尿病』をテーマに開催しました。

まず、よくある高齢患者さんの日常を寸劇でご覧いただき、それを題材に、低血糖や体調不良時（シックデイ）の留意事項を知っていただきました。続いて加齢や低栄養に伴う筋肉量の減少（サルコペニア）とその対策について、医師・管理栄養士・理学療法士による講演や実技で学びました。最後に認知・身体機能が低下しても切れ目ない療養が続けられるよう医療ソーシャルワーカーが様々なサービスについて紹介しました。

行楽日和の週末でしたが、たくさんの方が参加され、熱心にメモをとったり、展示物を閲覧したり、サルコペニアになってはいないか握力を測ってみたりと、楽しみながら学んでいただけたように思います。またの開催を楽しみに、そしてそれまで皆様お元気でいらしてください。

糖尿病・代謝内科/糖尿病チーム 佐々木 奈都江



かけはし 登録医紹介

vol.25

誠意誠心会 松田内科クリニック

院長 松田 百玉



《略歴》

東海大学医学部卒
東海大学医学部非常勤講師
医学博士

《所在地》

〒243-0213
厚木市飯山2119-7
クラウド I-1F
TEL. 046-243-5225

新年あけましておめでとうございます。年頭に書かせて頂くこととなり光栄です。

私は医師になり生活習慣病とそれに続く動脈硬化性疾患を扱うようになって以来、私の患者さんから脳卒中、心筋梗塞を出さないようにと思っています。開業して13年たちますがその思いは今も変わりません。それにはリスクファクターをできるだけ掘り下げ、その人が今動脈硬化のどの辺りにいるか、内皮機能検査、脈波、頸動脈IMTの観察などエコー検査を行い、血液検査と合わせて検索、観察し合併症を含め説明しております。でも開業するとこんなに忙しいかと思うほど、患者数が増えて、結果的に広く薄く診ていたことになるのでしょうか、時に足元をすくわれたように胸腹部大動脈瘤の急変に遭遇します。いつも心をひきしめて診療にあたるよう誠意誠心の心持ちでおります。

また最近の医師会雑誌でAIとDrの特集がありました。この二つの協力で診療にあたるとその診断治療に正確性が増す記事がありました。Drそれぞれ少しずつ得意なところも違うので、不明な点があればすぐ東名厚木病院に診ていただく、検査していただくように促しています。いろいろお手間をおかけしますが、今後とも私の善き相談、ご指導先としてよろしくご教示ください。

第27回 在宅懇談会

平成30年10月20日(土)、第27回在宅懇談会を開催致しました。今年度に入り、訪問看護ステーションさつき・もみじ共に新しいスタッフが入職しました。また今回初めて在宅懇談会に参加するご利用者様・ご家族様が多かった為、懇談会のテーマは「出会い」となりました。前半では、訪問看護ステーションさつきの理学療法士による「ヒトが立ちあがるとは」の講演会を行い、実際に参加者様に体験をして頂きました。後半では参加者様とスタッフで心温まるオカリナ演奏を聴き、日頃の介護などについての懇談もしました。

介護者同士でお話するのが初めての方や、2回・3回顔見知りの方もいる中、自身の介護体験や介護者の気分転換などの話で盛り上がり、「また頑張ろう」という気持ちになりました。」というご意見が聞かれました。少しでも介護の励みや健康維持となるような懇談会開催を今後も継続していきたいと思えます。

訪問看護ステーションさつき 山口 あゆみ



学会発表しました 肉視鏡センター

病院内の看護研究で取り組んできたテーマが日本看護学会で採択され、発表してきました。大腸内視鏡検査(CF)を安楽に受けられるよう補助具を考案し、使用したところ患者さんに好評で有効性を確認できたという内容です。会場は静岡県コンベンションアーツセンター(愛称：グランシップ)で全国から看護協会会員が集合しました。研究内容をポスターにまとめ掲示し、その場でポスターを見た人から質問を受け対応するという発表形式でした。内視鏡検査に携わる看護師からの質問が多く、どこも同じ

ような事で悩んでいるのがわかりました。ポスターのそばで質問者に対応するため、距離間が近く情報交換の場としても有益な時間を過ごすことができました。

患者さんは不安と緊張の中で検査を受けられていたと思います。今後も患者さんの思いに寄り添い検査看護の質の向上に励んでいきたいと思っています。

消化器内視鏡技師
平井 弘子
(看護師)

